

生命を生み出す母親は、生命を育て 生命を守ることをのぞみます

第51回 茨城県 母親大会 in 常総

(日時) 10月16日(日) 10:00 ~ 分科会 13:30 ~ 16:00 全体会と記念講演

(会場) 県立水海道第二高校

(交通) 関東鉄道常総線 水海道駅下車徒歩10分 駐車場は水海道二高内または市役所

【記念講演】「やさしく かしく 生きる力を」川端純四郎さん

(川端さん) 日本キリスト教団仙台北教会会員 オルガニスト。「九条の会」全国講師団、一貫して平和・人権の運動に参加。東日本大震災後、学生と共に復興支援活動に関わる

(守谷地区の組合員には今週チラシあり。常総市・水海道市は全戸配布あり)

【常総生協 食といのちの連続講座 2011】

アウシュビッツに消えた子供たち テレジンからのメッセージ

「テレジン収容所の小さな画家たち展」

10/18(火) ~ 10/23(日) 9:30 ~ 17:00 県立つくば美術館(つくば市吾妻2-8)

10/18(火)、テレジンの子供たちの絵画を日本に紹介した野村路子さんが来てくれます。

13:00 ~ 14:00 美術館にて野村さんによるギャラリートーク

野村さんが子供たちの絵のお話しをしながらいっしょに巡回してくれます

14:30 ~ 16:30 野村さんを囲んで、お話し交流会 (飲物・軽食付)

つくば美術館から徒歩10分 カピオのレストラン「カフェ・ベルガ」 要申込み(下記) 参加費500円



テレジンの子供たちは、私たちに、語りかけています。

戦争という愚行、他人を、他国を支配しようとする野望、いわれのない差別、未来につながる子供たちの命を断とうとした狂気、強い人、力のある人だけが勝者で、弱い者は不要だとする思想、自分に役立つ人以外は邪魔な存在だから抹殺してもいいのだという教育、そして、大声で叫ぶ権力者に従ってしまう大衆…ホロコーストを引き起こしたのは、そんな人間の弱さや愚かさでした。

あの第二次世界大戦中、ホロコーストの犠牲になった子どもは150万人以上といわれています。

あれは、過去の話、今は、そんなことは起こりはしないさ、と言えますか。そう言いたい、言えればいいと思います。でも、現実には、今もまったく同じ愚かなことが世界のあちこちで起こっています。

野村路子(のむら みちこ)さん紹介

1937年生まれ。早稲田大学仏文学科卒。コピーライター、タウン誌編集長を経てルポ、エッセイを執筆していたが、89年テレジンの子供たちの絵と出会い、その存在を日本に紹介したいとチェコの国立ユダヤ博物館に交渉、貸し出しを受けて、91年より「テレジン収容所の幼い画家たち展」を主催。生き残った「テレジンの子供たち」へのインタビューをかさね、現在も執筆、講演活動を続けている。

著書に「アンネへの手紙」、「写真記録アウシュビッツ」、「テレジンの子供たちの小さな画家たち」、「絶望の中の光」ほか



テレジン収容所の小さな画家たち展

10/18(火)「野村さんを囲んで、お話し交流会」に参加します

【会場】「カフェ・ベルガ」(つくばカピオ内) 【参加費】500円(軽食・飲物代)当日徴収

氏名 _____ 人数 _____ コース名 _____ 班名 _____ tel _____

COOP-JOSO News Letter

常総生活協同組合

発行/副理事長 大石
tel: 050-5511-3926

2011年度活動テーマ

発酵食品で放射能に打ち克つ健康づくり、人々の協同で被災地復興と大地再生。

発酵と復興

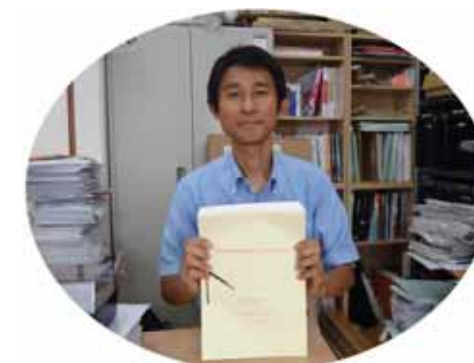
【ものづくり、人づくり、地域づくり】 震災・原発事故汚染から半年 子供たちやお母さんに もう二度とこんな思いをさせてはならない。

組合員のみなさん、頑張りました!

東海村の住民・村会議員さんから呼びかけられた

『東海第二原発の再稼働中止と 廃炉を求める署名』

常総生協 第一次集約分 2,941筆 を事務局に提出しました。



みなさん、家族・知人・友人のみならず近所の方、親戚、さらに遠方の住所の方まで署名を集めて下さいました。『全国署名』は第一次を10月に提出します。

「確かにお預かりしました! 常総さんの分を加えて1万人を越えました。10万人をめざします。署名事務局の小川仙月さんに。

原発いらない、署名運動を広げましょう!

署名の呼びかけが夏休みに入ってからだったこともあり、帰省中だったり、見落とされた方も多かったようです。

今週、もう一度署名用紙を入れています

不在だった方、見落とされた方、ぜひご協力をよろしく願います。

また、10月には理事会や「脱原発と暮らし見直し委員会」を中心に街頭署名活動などを計画しています。

「東海第二原発に対する署名」の最終〆切は10月末です。11月頭に県知事と日本原子力発電(株)社長に提出します。

「全国署名」の最終〆切は2/28ですが、常総生協では年内集約として提出します。

大先輩の組合員も奮闘

常総生協がまだ取手生協だった頃(30年前)の理事さんが、団地の自治会全戸を一軒一軒個別訪問して脱原発の署名を集めて下さり、住民のみさんの反応をも書いて送ってくれました。その最後に「もう、いろいろ行動する程の体力はありませんが、お手伝いできることがあれば協力します」と添えられていました。

大先輩も次の世代のために頑張ってください。私たちはこんな先輩達を持ってなんと幸せな協同組合でしょう。(大石)

【さようなら原発 100万人アクション】9・19 さようなら原発 5万人集会

口をついてくる言葉は、「私たちが馬鹿にするな・・・私たちの命を奪うな・・・」

「私たちは静かに怒りを燃やす 東北の鬼です」(福島の武藤類子さん)

9/19、組合員さんの皆さんと役員で「9/19さようなら原発5万人集会」に参加してきました。6万人を超える参加で、明治公園に入りきらないで駅までの道もいっぱいになっていました。今週は、集会でお話しされた方々の一部を掲載してお伝えします。

福島の武藤類子さんのスピーチから

皆さん、こんにちは。福島からまいりました。きょうは福島県内から、また避難先から、何台もバスを連ねて、たくさん仲間と一緒に、やってまいりました。

初めて集会やデモに参加する人も、たくさんいます。それでも福島原発で起きた悲しみを伝えよう、私たちこそが「原発いらない」の声をあげようと、声を掛けあい、誘いあってやってきました。

初めに申し上げたいことがあります。3.11からの大変な毎日を、命を守るために、あらゆることに取り組んできた皆さん一人一人を、深く尊敬いたします。それから、福島県民に温かい手を差し伸べ、つながり、様々な支援をしてくださった方々にお礼を申し上げます。ありがとうございます。

そして、この事故によって、大きな荷物を背負わせることになってしまった、子どもたち、若い人たちに、このような現実を作ってしまった世代として、心から謝りたいと思います。本当にごめんなさい。

さて、皆さん。福島はとても美しいところです。東に紺碧の太平洋を望む浜通り。モモ・梨・リンゴと果物の宝庫の中通り。猪苗代湖と磐梯山の周りに黄金色の稲穂が垂れる会津平野。その向こうを、深い山々



壇上でお話しする福島の武藤さん

が縁取っています。山は青く、水は清らかな、私たちの故郷です。

3.11原発事故を境に、その風景に、目には見えない放射能が降り注ぎ、私たちは被ばく者となりました。大混乱の中で、私たちには様々なことが起こりました。すばやく張り巡らされた安全キャンペーンと不安の狭間で、引き裂かれていく人と人とのつながり。地域で、職場で、学校で、家庭の中で、どれだけの人が悩み、悲しんだことでしょうか。

毎日、毎日、否応なく迫られる決断。逃げる、逃げない。食べる、食べない。子どもにマスクをさせる、させない。洗濯物を外に干す、干さない。畑を耕す、耕さない。何かにも申す、黙る。様々な苦渋の選択がありました。

そしていま、半年という月日の中で、次第に鮮明になってきたことは、事実は隠されるのだ、国は国民を守らないのだ、事故は未だに終わらないのだ、福島県民は核の実験材料にされるのだ、莫大な放射能のゴミは残るのだ、大きな犠牲の上になお原発を推進しようとする勢力があるのだ、私たちは捨てられたのだ——。私たちは疲れと、やりきれない悲しみに、



深いため息をつきます。

でも口をついてくる言葉は、私たちが馬鹿にするな、私たちの命を奪うな——です。福島県民はいま、怒りと悲しみの中から、静かに立ち上がっています。子どもたちを守ろうと、母親が、父親が、おじいちゃん、おばあちゃんが。自分たちの未来を奪われまいと若い世代が。大量の被爆に晒されながら事故処理に携わる原発従事者を助けようと、労働者たちが。土地を汚された絶望の中から、農民が。放射能による新たな差別と分断を生むまいと、障がいを持った人々が。一人一人の市民が、国と東電の責任を問い続けています。そして、原発はもういらないと、声を上げています。

私たちは静かに怒りを燃やす、東北の鬼です。私たち福島県民は、故郷を離れる者も、福島の土地に留まり生きる者も、苦悩と責任と希望を分かち合い、支え合って生きていこうと思っています。私たちとつながってください。私たちが起こしているアクションに、注目してください。政府交渉、疎開、裁判、避難、保養、除染、測定、原発と放射能についての学び。そしてどこにでも出かけて、福島を語ります。きょうは、遠くニューヨークでスピーチをしている仲間もいます。思いつく限りの、あらゆることに取り組んでいます。私たちに助けてください。どうか福島を忘れないでください。

もう一つ、お話ししたいことがあります。それは、私たち自身の生き方、暮らし方です。

私たちは何気なく差し込むコンセンツの向こう側を想像しなければなりません。差別と犠牲の上に成り立っていることに、思いをはせなければなりません。



原発は、その向こうにあるのです。

人類は、地球に生きる、ただ一種類の生き物にすぎません。自らの種族の未来を奪う生き物が、他にいないでしょうか。私は、この地球という美しい星と調和した、まっとうな生き物として生きたいです。ささやかでも、エネルギーを大事に使い、工夫に満ちた、豊かで創造的な暮らしを紡いでいきたいです。どうしたら原発と対極にある新しい世界を作っていけるのか。だれにも明確な答えは分かりません。

でき得ることは、誰かが決めたことに従うのではなく、一人一人が、本当に、本当に、本気で、自分の頭で考え、確かに目を見開き、自分ができようことを決断し、行動することだと思ふのです。一人一人に、その力があることを思い出しましょう。

私たちは誰でも、変わる勇気を持っています。奪われてきた自信を取り戻しましょう。原発をなお進めようとする力が垂直にそびえる壁ならば、限りなく横に広がりつながり続けていくことが、私たちの力です。たったいま、隣にいる人と、そつと手をつないでみてください。見つめ合い、お互いの辛さを聞きあひましよう。涙と怒りを許しあひましよう。いまつないでいる、その手の温もりを、日本中に、世界中に広げていきましょう。

私たち一人一人の、背負っていかねばならぬ荷物が、途方もなく重く、道のりがどんなに過酷であっても、目をそらさずに支えあり、軽やかに、朗らかに、生き延びていきましょう。



デモ行進にも参加してきました。